

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：世界のオープン政策との日本ー研究と学術コミュニケーションへの影響

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

協催 特定非営利活動法人 UniBio Press

3 開催日時：平成 26 年 3 月 13 日（木） 1 時 00 分～17 時 30 分

4 開催場所：学術会議講堂

5 開催趣旨：

研究成果として論文を出版し、新しい知見や学識を世に残し、人類の知識として共有するという学問の有り様は、21 世紀に入って急速にその姿を変えつつある。研究資金の使い方の中に、論文をオープンアクセス出版することを求め、またその成果として論文情報が産学官で自在に活用することができ、社会に還元しようとする国策が、例えば Horizon2020 に代表されるように欧米で活発に議論されている。研究が学際化し、人と情報がグローバルなスケールで自在に動く今、日本にも欧米の政策の影響が現れ始めている。論文出版を、研究費を使ってオープンアクセス出版（無料で閲覧出来るように）することにとどまらず、誰でも論文著作権を履行できるようにする利活用の仕組み（クリエイティブコモンズ）も、日本に漂着している。

我が国では、日本学術会議の提言を受け、我が国発の国際的なリーディングジャーナル育成プロジェクトが協力を推進されている。上記の学問を取り巻く新たな環境が、研究現場、コミュニケーション場面、そしてジャーナル育成プロジェクトに及ぼす影響と対策を多面的に科学者が議論する場として本シンポジウムを開催する。

6 参加人数：

講演者等：14 名

その他の参加者：250 名

7 特記事項：

学術の動向へフォーラム報告を掲載